

地球温暖化対策実施状況報告書

2019年 7月 25日

（報告先）
横浜市長

住所 神奈川県横浜市西区みなとみらい
2丁目3番7号
氏名 株式会社横浜ベイホテル東急
代表取締役 小林 昭人

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	株式会社 横浜ベイホテル東急（代表取締役 小林 昭人）				
事業者の主たる 事業所の所在地	〒220-8543 神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目3番7号				
主たる事業の業種	大分類	M 宿泊業、飲食サービス業			
	中分類	75 宿泊業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	3,773	kl	自動車の台数	台

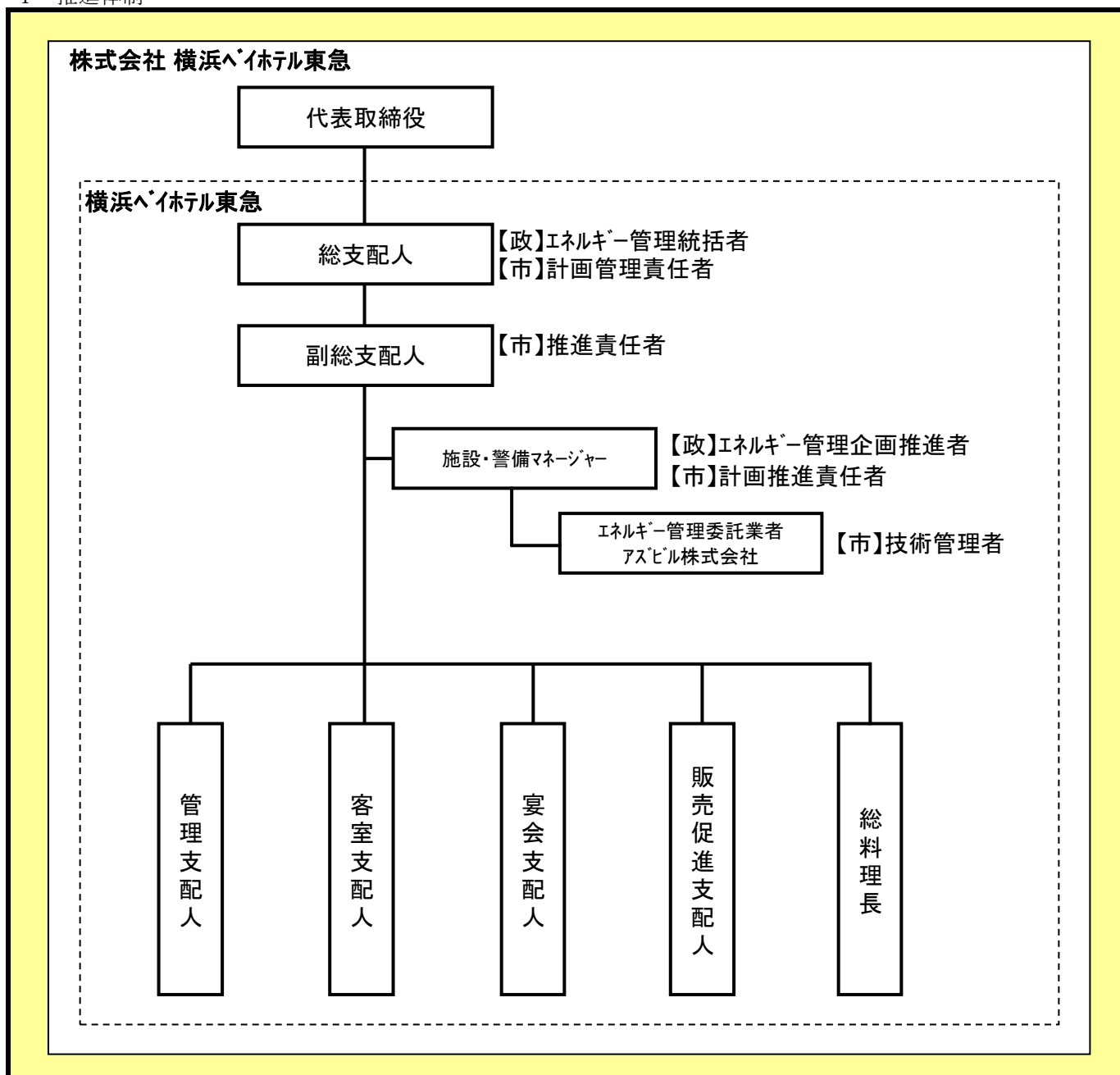
2 計画期間及び実施年度

計画期間	2016	年度～	2018	年度	実施年度	2018	年度
------	------	-----	------	----	------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針] エネルギーの合理的な使用により、社会の持続的展開に貢献する。 1. 環境負荷の低減に努め、環境保全を図ること。 2. 省エネ法に基づく管理標準を定め、判断基準に則した自主基準の制定・遵守に努めること。 3. 全員に環境方針ならびに、地球環境の大切さを周知し、全員参加の省エネに努めること。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討] 当事業者は建物の賃借人であり、設備の設置や直接的な更新権限を有していない。 その為、温室効果ガス排出の抑制に向けた対策としては、従来より取り組んできた運用対策の更なる強化、また機器交換時の高効率化などを中心に行っていく。</p>
--

4 推進体制



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	フロントカウンターで閲覧(事前に連絡のこと)
	所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目3番7号
	閲覧可能時間	10:00~17:00
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	7,093	t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	7,022	t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /	
目標年度 (2018年度)	目標排出量	7,058	t-CO ₂	削減率	0.5 %	削減率		%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	<p>【今計画期間における実施対策】</p> <p>①運転管理基準値の見直し・緩和（温度基準値や運転時間等） ②空調自動制御ロジックの改善・機能追加 ③消耗品交換時における高効率化（LED照明等） ④付加型省エネ設備の導入検討（インバータ、断熱ジャケット等）</p> <p>付加型省エネ設備の導入については、効果の大きいものは基準年度までに概ね完了しており、今計画期間においては、投資と効果のバランスを勘案しながらの実施となる。そのため目標値には反映させず、上記①～③の対策の目標値として0.5%と設定した。</p>								
事業者全体としての目標等	特になし								
第一年度 (2016年度)	排出量	7,235	t-CO ₂	削減率	▲ 2.0 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	7,123	t-CO ₂	削減率	▲ 1.4 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	<p>【基準年度比 冷水104.4%、蒸気101.8%、ガス101.6%、電気101.4%】</p> <p>平成28年度は、主に照明設備の高効率化により電力使用量の縮減化に努めたが、下記理由により基準年度排出量を下回る事が出来なかった。</p> <p>①夏期の気象条件の影響により、冷水熱量が増加した。 ②冬期の給湯温度設定の見直しに伴い、蒸気熱量が増加した。</p>								
第二年度 (2017年度)	排出量	6,965	t-CO ₂	削減率	1.8 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	6,721	t-CO ₂	削減率	4.3 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	<p>【基準年度比 冷水95.0%、蒸気95.7%、ガス102.2%、電気99.6%】</p> <p>2017年度は、下記の省エネルギー対策の実施により、冷水使用量と蒸気使用量の減少に繋がった。</p> <p>【今年度実施した主な対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宴会場における外気導入量の調整 蒸気配管の保温強化 照明設備の高効率化 各種ファン及びポンプのモータ更新 など 								
第三年度 (2018年度)	排出量	6,879	t-CO ₂	削減率	3.0 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	3,018	t-CO ₂	削減率	57.0 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	<p>【基準年度比 冷水101.9%、蒸気91.0%、ガス101.1%、電気96.9%】</p> <p>2018年度は、夏期の気象条件の影響により、冷水熱量が増加したが、下記の省エネルギー対策の実施により、蒸気使用量と電力使用量の減少に繋がった。</p> <p>【今年度実施した主な対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宴会場における外気導入量の調整 蒸気配管の保温強化 照明設備の高効率化 各種ファン及びポンプのモータ更新 など 								
計画期間全体の排出状況に関する説明	<p>本計画期間においては、下記の削減対策を実施した。</p> <p>①運転管理基準値の見直し・緩和（温度基準値や運転時間等） ②空調自動制御ロジックの改善・機能追加 ③消耗品交換時における高効率化（LED照明等） ④付加型省エネ設備の導入検討（インバータ、断熱ジャケット等） ⑤業務用冷蔵庫の更新</p> <p>結果として、期初に予定していた削減目標を大幅に上回る成果を上げる事が出来た。</p>								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 (年度)	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /
目標年度 (年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方								
事業者全体としての目標等								
第一年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
計画期間全体の排出状況に関する説明								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計 (t-CO ₂)
3,000k l 以上	1	7,093	1	7,235	1	6,965	1	6,879
1,500k l 以上 3,000k l 未満	0	0	0	0	0	0	0	0
500k l 以上 1,500k l 未満	0	0	0	0	0	0	0	0
500k l 未満	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	7,093	1	7,235	1	6,965	1	6,879

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数 (台)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計 (t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計 (t-CO ₂)
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合 (%)		%		%		%		%

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度						第二年度						第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況		
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	非該当	非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない	
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	非該当	非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない	
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	非該当	/	—	年度	対象設備なし		非該当	/	—	年度	対象設備なし		非該当	/	—	年度	対象設備なし	
	13	照明設備の高効率化	事業所	非該当	非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない		非該当	/	—	年度	設備の更新権限を有していない	
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度			実施済	1/1	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	18	排出ガス温度の管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし(DHC受入のため)		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし(DHC受入のため)	
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし		非該当	(設備の種類) /	—	年度	対象設備なし	

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度						第二年度						第三年度								
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況			
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度		
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度		
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度			—	/	年度		
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度		
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度			/	—	年度		

10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

- （注意事項） ・対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。
 ・燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。
 ・記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者総排出量 (t-CO2)		CO2排出量合計① (t-CO2)		CO2排出量合計② (t-CO2)		削減量合計 (t-CO2)					
		6.18 %		6,879		746.1		320.8		425					
連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
1	空調機・給排気ファンへのインバータ装置導入	横浜ベイホテル東急	2009	下記動力は商用電源による駆動となっていた。 コーヒーショップ AHU/RET (11/7.5kW) コーヒーショップ 厨房OAC/EXF (11/15kW) 中華レストランAHU/RET (7.5/7.5kW) 中華厨房OAC/EXF (18.5/22kW) 主厨房東OAC/EXF (22/30kW) 主厨房西OAC/EXF (18.5/30kW) 熱源機械室SUF/EXF (30/15kW)	昼間買電	807,357	k Wh	413.4	各系統にインバータ装置を併設し、回転数の時間切換（または固定）制御を導入した。	昼間買電	457,342	k Wh	234.2	179.2	千円
2	冷水一次ポンプ完全停止	横浜ベイホテル東急	2011	負荷流量が一定値以上となると、冷水一次ポンプが起動した。 冷水一次ポンプ（45kWx4） ※内1台はインバータ駆動	昼間買電	55,528	k Wh	28.4	制御弁の調整、圧力設定の見直し等により、ピーク時においても受入供給圧力のみでの冷水循環に成功した。	昼間買電	0	k Wh	0.0	28.4	千円
3	冷水二次ポンプへのインバータ装置導入	横浜ベイホテル東急	2015	ポンプは商用電源による駆動となっていた。 低層冷水二次ポンプ（11kWx4台） 高層冷水二次ポンプ（11kWx4台）	昼間買電	307,492	k Wh	157.4	ポンプ全台にインバータ装置を併設し吐出圧力による回転数制御を導入した。また圧力設定値は負荷状況に応じて可変させるロジックとした。	昼間買電	104,770	k Wh	53.6	103.8	千円
4	温水ポンプの圧力制御改善	横浜ベイホテル東急	2015	ベースポンプのみにインバータ装置は導入されていたが、圧力設定は年間固定となっていた。 低層温水ポンプ（30kWx4台） 高層温水ポンプ（7.5kWx4台）	昼間買電	120,639	k Wh	61.8	負荷状況に応じて圧力設定値を可変させるロジックを追加した。	昼間買電	31,767	k Wh	16.3	45.5	千円
5	業務用冷蔵庫の更新	横浜ベイホテル東急	2018	業務用冷蔵コールドテーブル(9台) 業務用縦型リーチイン冷蔵庫(10台)	昼間買電	20,500	k Wh	10.5	最新の高効率タイプに更新したことにより消費電力を抑制した。	昼間買電	9,810	k Wh	5.0	5.5	千円

連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
6	照明設備の高効率化	横浜ベイホテル東急	2018	客室(パスルーム)、ELVホール シリカ(40W×970台) シリカ(60W×224台) ミニクリプトン(40W×776台)	昼間買電	145,655	kWh	74.6	最新のLEDタイプに更新したことにより消費電力を抑制した。	昼間買電	22,956	kWh	11.8	62.8	千円
															千円
															千円
															千円
															千円
															千円

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1	LED照明への更新 (白熱球100W→LED球)	2016年度	2Fレストラン ツアーハウス店内 16W (69個)	消費電力の低減 (期待効果 12.8t-CO2)
2	LED照明への更新	2017年度	客室フック・通路照明4.4W(255個) 厨房4W(30個)	消費電力の低減 (期待効果 21.1t-CO2)
3	LED照明への更新	2018年度	客室(ハスルーム)、ELVホール シカ(40W×970台)、シカ(60W×224台) 他	消費電力の低減 (期待効果 62.8t-CO2)
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	3,861	東京電力エナジーパートナー
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	<ul style="list-style-type: none"> ■グリーンコイン制度 お客様がご使用になられなかったアメニティの数に応じて、環境保全活動への寄付を行う。 ■周辺地域の清掃活動 近隣のホテルと共同で、花火大会翌日の地域清掃活動を行う。
計画期間内に実施する対策	<ul style="list-style-type: none"> ■行政官庁主催の共同取組み（ライトダウンキャンペーン等）への積極参加
第一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ■行政官庁主催の共同取組み（ライトダウンキャンペーン等）への積極参加
第二年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ■行政官庁主催の共同取組み（ライトダウンキャンペーン等）への積極参加
第三年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ■行政官庁主催の共同取組み（ライトダウンキャンペーン等）への積極参加

14 実施状況等に対する自己評価

当ホテルは1997年の開業以降、建物賃借人であり設備の直接的な更新権限を有していない中で、従来より行ってきた運用対策の更なる強化に加え、既存設備への付加型の投資対策（インバータ・断熱ジャケット等）や、消耗品交換時における高効率化（客室及びバックヤードなどのLED照明への交換）を実施し、期初に設定した削減目標を上回る成果を上げる事が出来た。